

和 算 漫 録 (五)

村 林 專 之 助

1、我が算學では、開平に帶縱開平と相應開平との二つの名があるが、今兩者は如何に區別されてゐるかを、参考の爲め次に書いて見ることにしますと、

帶縱開平

長 直積三十五歩あり、長平の差二寸にして長及平幾何

直	平	答 長 七寸	平 五寸
---	---	--------	------

術日差二寸を半して(一寸)天とす是を掛け合して積(三十五歩)を加へ(三十六歩)を得平方に開き(六寸)を得これに天(一寸)を加へて長(七寸)を得内長平の差(二寸)を引き平(五寸)を得るなり。

相應開平

長 平二寸長三寸の直形に相應して積二十四歩を以て直を作る其長平各何程

直	平	答 新長六寸	新平四寸
---	---	--------	------

術日長(三寸)へ平(二寸)を掛け(六寸)を得之を以て積(二十四歩)を割り(四個)を得開平方(二個)を得て因法とす長(三寸)へ因法をかけ新長とし又平(二寸)へ因法を掛け新平とす。

以上の如く區別されてゐるのですが、面白く分けてあると思ひます。

2、一つの算盤へ、もう一つの算盤を附けたやうな二重の算盤を工夫使用することを、大阪の或小學校の校長さんから發表されたことを

新聞に依つて知りましたが、熱心な研究者たる同校長さんに敬意を表したいのです。但し、此の二重算盤は、従前からあつたやうに思つてゐます。そこで、此の算盤の使用法を、同校長さんに伺つて見なければ、明言は出來ないのですが、第一かさばつて携帯其の他に不便ではないかと思はれます。一體普通の算盤の使用携帯共便利にして、迅速に計算されるのが、大いに誇る所のものと思つてゐます。が、兎に角同校長さん又は同算盤に慣れた人に、一日も早く面會する機會の來るのを祈つて居る次第であります。

3、俗諺云虎ハ惜毛、士ハ惜名。又云人ハ一代名ハ末代ト。竊ニ此惟等ノ語。尤士心ヲ害ス。如何トナレバ、人唯名有コトヲ知テ、有義ヲ不知シムルナリ。唯名有コトヲ知故、外功ヲ立毎ニ、内必求アリ。君子賤之。苟義有ヲ知バ、只爲其所當爲ノミ。更求所ナシ。君子貴之。求處ノ者ハ名ナリ。名亦猶利。若夫名ノ爲ニシテ功ヲ立バ、縱令功天下ヲ盡フトモ、其心則市人耳。君子ノ爲ニ賤マルル所以ナリ。

(和漢太平廣記 藤井懶齋著 正徳五年刊行、著者は京都の儒者なり。名は減、懶齋と號せり。筑後の人にして醫を岡本玄治に學び、久留米侯に仕ふ。後辭して京師に上り、儒を山崎闇齋に學ぶ。晩に京西の鳴瀧村に隱棲して、此處に歿す。著書は本記の外尙ほ數書あり。)

本漫録筆者は昨年末より眼をわづらひ爲めに二月號の分は、執筆を中止した次第です。そこで目下未だ慶應で治療中ですが、本號は少しみじかくして書いて見ました。缺字や誤字があるかもしれません。おゆるし下さい。なほ、例に依つて駄句を御覽に入れます。

草もちや春のにほひも味ひて 松 亭